弥生時代プリント

名前

問1　奈良県などの古墳から出土する銅鏡などの考古資料は、当時の中国の王朝から邪馬台国の女王へ贈られたものである可能性が検討されています。中国の歴史書には、卑弥呼が「親魏倭王」の称号とともに百枚の銅鏡を授かったという記述がありますが、このとき外交関係を結んでいた中国の王朝名を答えなさい。（2021年 奈良公立入試 類似）

1. 魏　2. 秦　3. 隋　4. 唐

問2　邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）

1. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。
2. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。
3. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。
4. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。

問3　1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。（2026年 山口公立入試 類似）

1. 漢　2. 秦　3. 魏　4. 隋

問4　3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷が一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 「魏志」倭人伝　2. 「漢書」地理志　3. 「後漢書」東夷伝　4. 「隋書」倭国伝

問5　縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。
2. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。
3. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。
4. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。

問6　弥生時代の日本列島では、鉄器と青銅器という2種類の金属器が使われていました。鉄器が主に生産や戦闘の道具として発展したのに対し、青銅器が主に「祭祀や儀式の道具」として用いられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため
2. 大陸から伝わった時期が鉄器よりも大幅に遅く、すでに農具としての鉄器が普及していたため
3. 加工が非常に困難であり、当時の技術では小さな鏡や鈴の形にすることしかできなかったため
4. 青銅には殺菌作用があると考えられており、食料の保存や医療用の道具として限定的に使われたため

問7　弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 大阪公立入試 類似）

1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。
2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。
3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。
4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。

問8　弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。
2. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。
3. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。
4. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。

問9　佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。
2. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。
3. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。
4. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である

問10　弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬公立入試 類似）

1. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため
2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため
3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため
4. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため

問11　長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 『魏志』倭人伝　2. 『漢書』地理志　3. 『後漢書』東夷伝　4. 『宋書』倭国伝

問12　中国の歴史書「魏志倭人伝」に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。（2026年 大阪公立入試 類似）

1. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。
2. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。
3. 白村江の戦いでの協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。
4. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 魏	当時の邪馬台国と中国との関係は、歴史書などの文字資料だけでなく、出土した銅鏡などの物的な資料からも研究されています。卑弥呼が使いを送った魏という国は、当時の日本（倭）に対してその権威を認める証として鏡や金印を与えました。出土した銅鏡と文献の記述を照らし合わせることで、当時の東アジアにおける交流の実態や、日本列島における国家形成の過程が明らかにされようとしています。
問2	答え 1 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問3	答え 1 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問4	答え 1 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問5	答え 1 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問6	答え 1 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため	青銅（銅とスズの合金）は鉄に比べて柔らかく、激しい衝撃が加わる武器や農具として使うとすぐに傷んでしまう欠点がありました。しかし、鋳造によって複雑な模様を表現しやすく、磨き上げると金色に輝くといった装飾的な特徴があったため、集団の結束を高めるための祭りや、神聖な儀式の象徴として利用されるようになりました。
問7	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問8	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭礼に深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問9	答え 1 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問10	答え 1 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問11	答え 1 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問12	答え 1 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。